

【1-14】

湾・灘の区分	播磨灘
取組の名称	播磨灘地区水産環境整備事業
事業期間及び事業費	事業期間:2014～2020年度(平成26年度～令和2年度) 事業費:126,000(千円)
事業体制、モニタリング体制	【事業実施(カキ殻敷設等)】 岡山県農林水産部水産課 【モニタリング実施】 岡山県農林水産総合センター水産研究所  ※適宜、成果報告等により情報を共有
事業の背景・目的	備前市日生町では、長年の漁業者等によるアマモ場再生により、現在では沿岸域の環境は徐々に改善されつつある。一方で、沖合域の海底の底質は、硫化物や有機物等が多く魚介類の生息に厳しい環境となっており、特にカレイ類等の底生性魚類の漁獲量が大きく減少している。これらの課題に対して、かつて岡山県海域で見られた良好な漁場(カキ礁、貝床)を模したカキ殻を海底に敷設する手法により、良好な底質環境を創出することで、魚介類の餌生物を増加させ、魚介類やナマコ等の資源増大にもつなげていくこととしている。
事業場所の詳細	 <p>備前市日生町大多府島地先</p> <p>位置図</p>
事業内容	平成27年度～令和2年度の6年間に、備前市日生町大多府島地先にカキ殻を97,200㎡(12工区)海底に敷設することで、底質環境の改善を図り、魚介類にとって良好な生息環境を創出する。 1箇所あたり、カキ殻を30m四方に50cm厚で敷設する。1工区あたり、間隔を空けて9箇所設置し、計12工区を整備する。 カキ殻の利用にあたっては「カキ殻を利用した総合的な底質改良技術ガイドライン(平成25年3月岡山県)」に沿って使用する。

<p>(続き) 事業内容</p>	 <p>カキ殻を泥の海底に敷設</p> <p>底質改良区  <small>大府島沿岸から沖合の既存増殖場までの、泥質で特に環境の良くない海底にカキ殻による底質改良区を千鳥状に設置する。</small></p> <p>1 工区の詳細図</p> <p>事業イメージ図</p>
<p>モニタリング方法(効果の確認方法)の概要</p>	<p>○調査項目  [環境調査]水質、底質、底生生物、深浅測量、浮泥量等  [生物調査]ウシノシタ類、ナマコ等の蛸集状況</p> <p>○調査時期・頻度  [環境調査]6月～2月にかけて月1回(底生生物調査は年4回)  [生物調査]6月～2月にかけて月1回</p> <p>○調査場所  カキ殻敷設区とカキ殻を敷設していない対象区</p> <p>○調査地点数  [環境調査]3～14地点  [生物調査]2～3地点</p> <p>○モニタリング方法  [環境調査]採水・採泥により調査  [生物調査]刺網調査、ナマコ潜ぎ調査(底びき網調査)、潜水目視調査</p>
<p>取組による効果・影響及びその判断基準等</p>	<p><b>【事業の効果】</b>  平成24～29年度に岡山県が実施した実証試験の結果、軟泥質の海底にカキ殻を敷設することにより、表面積が大きく複雑な薄層構造等を有し、通水性のよい新たな生物生息層が形成され、様々な底生生物が着定、増殖することが確認された。  底質改善及び底生生物の種類数の増加及び有用魚類等の蛸集が確認されたため、海底環境の改善、底生魚介類に対する餌料環境の向上及び生息場の提供等に効果があったと考えられた。</p>
<p>モニタリング結果の活用方法</p>	<p>事業効果の検証及び他海域で実施する際の検討材料に活用する。</p>
<p>現状での課題</p>	<p>敷設したカキ殻の上に新たに堆積する浮泥による、事業効果の低減が見られる。</p>
<p>今後の予定等</p>	<p>当初の計画のとおり、令和2年度に事業が完了する。  今後も長期的な効果を把握するためモニタリングを継続する。  また、漁具などを利用した海底耕耘等、適切な維持管理方法を検討し、事業効果発現の促進に努める。</p>
<p>取組事例についての発表資料等</p>	<p>瀬戸内海環境保全小委員会(第15回)資料</p>
<p>情報提供元</p>	<p>岡山県環境文化部環境管理課</p>